

いながわ

議会 だより

第156号

平成27年(2015年)8月1日

発行：兵庫県猪名川町議会

(仮称)六瀬総合センター 平成28年3月完成予定	2
各常任委員会報告	4
一般質問 8人が町の考えを聞く	5
数字でまちを知る(総集編)	10



イナショー45の講習会

(六瀬幼稚園)

（仮称）六瀬総合センター
平成28年3月完成予定



（仮称）六瀬総合センター完成予想図

第376回 6月定例会

第376回定例会を6月9日から23日までの15日間開会し、専決処分4件、条例改正2件、条例廃止1件、請負契約1件、動産購入3件を審議し、いずれも原案どおり承認・同意・可決したほか、請願1件を採択。また、6月14日には今年で14回目となる日曜議会（一般質問）を開催した。
（詳細は5ページ～9ページ参照）

意見書を提出

『小・中学校における少人数学級の実現と義務教育費国庫負担制度の堅持』を求める請願書

〈請願者〉
連合川西・猪名川地区連絡会

結果
本会議
全員一致で採択

「意見書」を国へ提出

要旨
子どもの学ぶ意欲、主体的な取り組みを引き出す教育の役割は重要である。

1、OECD諸国並みのゆたかな教育環境を整備するため、少人数学級を推進すること。
2、教育の機会均等と水準の維持のため、義務教育費国庫負担制度を堅持すること。

請負契約

（仮称）六瀬総合センター新築工事請負契約の締結

町の北部における防災拠点施設の整備及び公共施設再編の一環となる六瀬コミュニティセンターと木津総合会館の統合を目的として、（仮称）六瀬総合センターを新築するため、工事請負契約を締結する。平成28年3月完成を目指す。

動産購入

塵芥収集車を更新

走行距離が20万キロを超え、車体の傷みが激しく機器の劣化が激しいため、塵芥収集車1台を購入。

OECD
（経済協力開発機構）
先進34カ国が加盟する国際機関。経済動向、貿易、開発援助の分野などの分析・検討を行っている。

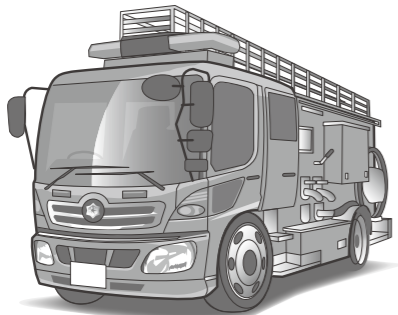
ひとくちメモ

消防ポンプ自動車を更新

消防署北出張所に配備しているが、約21年経過し、劣化しているため新たに購入。

小型動力ポンプ付積載車を更新

消防団上野分団に配備している小型動力ポンプ付積載車が約23年経過し劣化しているため新たに購入。



請負契約・動産購入一覧

議案		金額
請負契約	（仮称）六瀬総合センター新築工事	198,493,200円
動産購入	塵芥収集車	7,768,483円
	消防ポンプ自動車	46,440,000円
	小型動力ポンプ付積載車	7,873,200円

専決処分

町税条例・都市計画税条例・国民健康保険税条例・介護保険条例の一部改正。

条例改正

町議会委員会条例の一部を改正

町長等執行機関の組織改編に伴い、常任委員会の所管事項を改めるため、本条例を改正する。平成27年10月1日から施行する。

町地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正について

猪名川パークタウン地区計画の変更に伴い、建築物の制限に係る区域を拡大するため本条例の一部を改正する。

報告事項

執行者から次の5件について報告があった。

- 平成26年度事故線越し線越計算書の報告
- 平成26年度線越明許費線越計算書の報告
- 平成26年度兵庫県町土地開発公社決算書の報告
- 第16期株式会社いながわフレッシュパーク決算書の報告
- 平成26年度猪名川町水道事業会計継続費線越計算書の報告

条例廃止

町コミュニティ施設設置及び管理に関する条例の廃止

（仮称）六瀬総合センターの新設に伴い、六瀬コミュニティセンターの利用を平成27年6月30日をもって終了とするため、本条例を廃止する。

総務文教

防災情報システムを現地視察

6月10日に委員会を開き継続調査事項「防災・危機管理対策の推進について」防災システムの活用についてを調査。現地視察概要は次のとおり。

猪名川町災害対策室（第2庁舎）と笹尾浄水

場を管内視察。内容については、①災害時の通信手段の確保②災害対策本部への情報集約③住民情報提供の手段などである。

視察内容は高速LANネットワークシステムで

構成された①町内5カ所にカメラを設置し、役場と消防本部に接続、また映像録画の情報通信のしくみ②無線機運用による音声通信・伝達で防災スピーカーへ拡声も可能③全町情報システム系統の確認など。

主な質疑は次のとおり。

Q スピーカーの音が小さいが、ダム放流時のようにサイレンは鳴らすのか。

A 災害時は音量を大きくし、サイレンも鳴らす。

Q 今回配備した防災システムと既存の衛星携帯電話との整合性は。

A 衛星携帯電話は1対1の通話ができるが、防災システムは複数の人に発信が可能である。衛星携帯電話は集落に36台配置活用しているが、更新については検討する。



平成26年の集中豪雨（猪名川にかかる柏梨田橋）

生活建設

11t大型塵芥収集車を購入



導入予定の11トン大型塵芥収集車

6月11日委員会を開会し付託3議案を審査。

主な質疑は次のとおり。**動産の購入**

Q 収集業務には直営と委託があり、ごみの分別収集も進んでおり、ごみの量が減ってきていると思うが、大きな車が必要か。

A 直営のつづじが丘コースの燃えるごみが多く、無理がでている。1

日5回から7回持ちこんでいたものが、1日3回から4回へと収集回数を減らし、収集時間を短縮できる。それにより、住民サービスの向上にもつながる。

地区計画区域内における建築物の制限に関する条例の一部改正

Q ショッピングセンター地区から複合利用地区に変更されたが、内容はどのように変わるのか。

A パークタウンの大型商業施設と道路を挟んだ向かい側の商業地が複合利用地区に変更となり、現状に即した形になる。第2種住居地域の文化体育館と第1種住居地域のバス営業所が、同じ近隣商業地域の名称に変わる。（その他1議案についても審査し、いずれも全会一致で可決）

第376回 定例会一般質問事項

6月14日
日曜議会を
開催しました



傍聴者が見守る一般質問

質問順	質問者氏名	質問事項
1	丸山 純	●いながわ出会いサポートセンターの設立を ●猪名川町発注の工事も社保加入条件になっているか
2	末松 早苗	●町関連グッズの製作・販売強化へ取り組みを
3	福井 澄榮	●タブレット端末の導入で救急医療の向上を ●1市3町広域で高度病院の建設を ●エネルギー自給率100%を目指す取り組みを
4	池上 哲男	●住宅リフォーム助成制度の創設を
5	山田 京子	●空き家対策について（人口維持策、移住促進策など）
6	久保 宗一	●まちづくり元年に自治基本条例を制定しては ●本町における個人情報などの管理体制は万全か
7	南 初男	●地域力アップで安全・安心の猪名川町を ●烏帽子岩橋の供用は8月と聞いているが
8	合田 共行	●ユニバーサル社会づくりについて ●価値向上を目指したまちづくり

Q 出会いサポートセンターの設立を

A 他市町と広域連携など含め検討



丸山 純 議員

阪神北出会いサポートセンター

〒665-0035
宝塚市逆瀬川11-11-1
アピア2 1階
TEL (0797) 26-7351
FAX (0797) 72-1086

受付日時
火・水・金・土
9:00~17:15

駐車場有り
(有料)



出会いサポートセンターのひとつ(兵庫県ホームページより)

いながわ地区の広域連携なども含め検討したい。

生活部長 様々な理由から結婚を望まない晩婚化が進んでいる。結婚したいのにできない理由は何か。

生活部長 平成27年4月時点で、男性2187人、女性2502人、合計4689人である。今後本町及び全国とも人口減少が確実視され、少子高齢化が一層進行するものと考えている。

生活部長 本町の現在の25歳〜40歳の男女別人数は。また10年後の傾向について、どう考えているか。

の傾向がある。また若年層を中心とした非正規雇用労働や、収入の不安定さが大きく関係していると考えられる。

生活部長 センター設置は色々な要因の情報を収集し、分析する必要がある。少子化の要因の一つである晩婚化・未婚化の進行に対する取り組みとして、他市町との広域連携なども含め検討したい。

生活部長 『いながわ出会いサポートセンター』を作りたいが本町の考えは。

生活部長 人口増加の起爆剤ともなり得る、猪名川町の冠を付けた『いながわ出会いサポートセンター』を作りたいが本町の考えは。



末松 早苗 議員

Q 町関連グッズの製作・販売強化を

A サービス向上としての検討課題と認識

いなぼうグッズを町で製作また観光ガイドマップなどとともに、役場一階の証明書発行窓口で販売すればよいと思うが。

企画総務部長 町で製作する物品はオリジナル品で、また個数も限定されるため製作コストが高く作成個数も多くなつて在庫管理などの問題も生じる。また証明書発行窓口での販売は、多くの来庁者への影響を考えると実施は困難である。

町教育委員会が発行している『まんがで見る猪名川の歴史』をはじめとした冊子類なども、関連グ



いなぼうグッズと町教育委員会発行冊子

ッズと想定しているが、一般書店や、ふるさと館・図書館以外でも販売する考えは。

教育部長 『まんがで見る猪名川の歴史』のような幅広い年齢層が楽しめる文化財冊子を発行する際には、書店での販売も検討課題の一つと考える。また冊子類は種類が多いことから、販売窓口を増やすことは考えていないが、悠久の館や(仮称)六瀬総合センターなどと協議の上で、冊子の紹介などを行い状況を検証していきたいと考える。

Q 1市3町広域で高度病院の建設を

A 川西市から公式な要請を受けていない



福井 澄榮 議員



市立川西病院

現在、川西市では「市立川西病院」の建て替え計画が議論されている。川西市民はもとより、本町・豊能町・能勢町の多くの人もこの病院にお世話になっている。

本町に無償で寄付された土地に、1市3町広域でより高度な病院を、土地代を無償で建設するよう計画することが重要だが。

生活部長 川西市から公式な要請を受けていないので、意見や希望を申し入れるべきではない。今後協議の申し入れなどがあれば、真摯に対応しながら。

ければならない最重要案件と認識している。金沢市のようにタブレット端末の導入で救急医療の向上を。

消防長 平成27年4月から正式運用しているが、傷病者の状況を医師へ画像転送するシステムは、近隣市町や阪神地区の医療機関及びメディカルコントロール協議会と協調し適切に対応したい。

エネルギー自給率100%を目指す取り組みを。

地域振興部長 環境に配慮したまちづくりを進めていく。

Q 町独自の住宅リフォーム助成実施は

A 今後の研究課題とする



池上 哲男 議員

住宅リフォーム助成について、平成22年の質問時に全国で175自治体で実施だったものが24年は533、県下でも41市町中13に、25年には628、県下でも17に増えている。住民ニーズ、経済効果が大きいということ。明石市は1590万円の助成で、3億円の効果が



政府も認めた住宅リフォーム助成

出たと報道されている。国土交通省は「単に個人の財産に公費を投入するものではない」とし、石破大臣も「経済効果が高いのも事実」と答弁しているが、大きな経済効果にならないとの認識は変わらないか。国制度により今回扱うプレミアム付リフォーム券と、これまでの「公平性の観点から」との答弁との整合性は。国の制度が終わっても、町独自で行う考えと、実施するための問題点は。

地域振興部長 実施自治体では経済効果はあるものの、限られた業種への支援であり、他業種からのフレームもあると聞く。大きな経済波及効果は未知数であり、従前の考えと同様。今後の実施は、効果と公平性を念頭におき、研究課題とする。

Q ごみ屋敷に関する条例制定は

A 検討会を設置し、条例制定も含め検討



山田 京子 議員

移住促進策には、移住される世帯に直接的に補助や支援する方法と、町自体の付加価値を高める方法があるが、町のスタンスはどちらか。

まちづくり部長 庁内調整会議を立ち上げ現状把握・分析を行っている。どちらかといえば付加価値を高める方法。

空き家対策として、貸す側・借りる側の双方に利点があるJ-Teeの「マイホーム借り上げ制度」を活用してはどうか。

まちづくり部長 町が進めようとしている「空き家バンク」とJ-Teeの「マ



条例も必要と思われる通称ごみ屋敷(イメージ)

ひとくちメモ

JTIとは
一般社団法人移住・住み替え支援機構

「イホーム借り上げ制度」は、空き家の活用という観点では有効な制度と認識しており、物件所有者が双方の制度を有効的に活用されることを望む。

ごみ屋敷と思われる家が見受けられるため、ごみ屋敷に関する条例制定にむけた町の見解は。

地域振興部長 地域住民から対処を求められているごみ屋敷もあり、問題解決にあたっている。行政機関や地域住民と検討会を設置し、条例などの制定が必要かどうかも含め、検討したい。



久保 宗一 議員

Q 住民自治基本条例を制定してはどうか

A 定義ではなくまち協の活動支援が大切

今、自治体運営の基本原則や住民自治を制度化した「住民自治基本条例」を制定するまちづくり元年と考えるが、地方自治制度の今日的課題は何か。

【地域振興部長】 まちづくりは、行政を中心とした画一的なサービスから、地域の課題は地域で解決する住民主体にシフトし、住民には共助の精神が芽生えている一方で、住民自治には、地域を支える人材の不足、組織の脆弱化などの課題があり、団体自治では県との関係で税財源移譲の課題がある。

地方自治の理念などを定義づける必要はないか。



地域づくりの主体となる『まち協』の朝市(松尾台)

【地域振興部長】 定義にこだわらず、役所任せでないまちづくり協議会主体の取り組み過程とこれを支援していくことが大切。

【企画総務部長】 サイバー攻撃の事案発生時には迅速対応できる体制がある。

【企画総務部長】 情報セキュリティについて、管理運用している内容を広報などで周知していきたい。

年金機構で情報の流出事件が発生したが、本町の情報セキュリティに関し住民に周知する考えは。

Q 地域力アップで安全安心の猪名川町を

A 自助・共助・公助段階ごとの連携連動



南 初男 議員



工事中の烏帽子岩橋

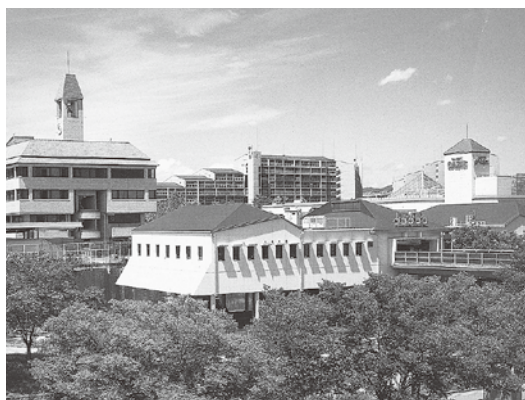
本町は豊かな自然に恵まれた環境の中、地域性を生かし、住んで良かったと実感できるまちづくりをするために、自助・共助・公助の3原則が大事である。地方創生・少子高齢化・危機管理にも必要と思うが。

【地域振興部長】 安全・安心のまちづくりを推進していくために、自助・共助・公助を段階ごとの連携・連動が重要であると考えている。地方創生・少子高齢化・危機管理など多様な課題に関し3原則が地域の安全安心を守

り、参画と協働によるまちづくりを推進し、地域の独自性を生かしたまちづくりに取り組み。

烏帽子岩橋の供用は諸事情により工事が遅れているが、屏風岩橋は、4年以内と聞いているが。

【まちづくり部長】 宝塚土木事務所発注工事以外の電話線・水道管の移設工事、また、橋の前後の改良工事などを行って完了は平成28年1月末と聞いている。屏風岩橋と前後の道路改良を町から県への要望1位としている。



日生中央駅周辺



合田 共行 議員

Q 官民連携で町有地・民有地の活用を！
A 便利な街、定住促進に検討価値はある

利便性と有効性を重きにコンパクトシティや広域の街づくりが問われ、本町の将来展望を見据え、『日生ニュータウン』の街づくりを提案する。

①「定住促進」につながる街づくり活性化策として集合住宅の建設と、駅・商業地との更なる融合を。

②「官民連携」の促進で施設の利用と財産の活用を、官民連携で町有地・

民有地を活用すべき。

③「広域連携」 日生中央地区の開発特性から、川西市との連携による公益な運営に期待がもてる。など、街づくり施策を提案するが、その考えは。

企画総務部長 ①本町への流入人口の増加と定住促進において検討価値はある。地域住民や民間事業者などのニーズを確認、今後の方向性を整理する。

②駅・周辺施設の利便性の向上を図る必要がある。公有施設・民間施設との調和、機能連携が一層求められると認識している。

③隣接市との具体的な協議も充分進んでいないことから、検討課題である。

再度、広域の取り組みは、町長 川西市長と、現状は話し合っている。

本議会を録画配信でご覧下さい!!

本会議終了後、おおむね5日程度で町ホームページからご覧いただけます。

1 **ここをクリック**

2 **ここをクリック**

3 **日程** **議員**

(町ホームページから町議会をクリックし、町議会から録画配信をクリックして映像配信にお進みください。)

議員名をクリックして一般質問や代表質問をご覧ください

い	池上 哲男	し	下村 原雄	み	南 初男
ろ	石井 洋二	す	末松 卓由	や	宮家 豊一
か	加藤 聡子	に	西谷 八郎治	や	安井 和広
く	久保 宗一	ひ	肥爪 勝幸		山田 京子
こ	合田 共行	ふ	福井 浩崇		
し	下村 寛千代	ま	丸山 純		

前画面へ戻る

検索して見る場合はこちら

※例として見ると、検索日が平成25年、平成24年と表示されます。

年度をクリックしてお進みください

録画配信へ戻る

ぜひご家庭でご覧ください。

録画配信は、皆さんに、より近い議会をめざした取り組みです。

数字でまちを知る (総集編)

数字で猪名川町の今を知る

創生
まちひとしごと

ますます進展する人口減少社会は、少子高齢化、都市部と地方の格差などが顕著に現れ課題は大きい。政府は地方の活性化へ向けた「地方創生」を打ち出し、「地域消費喚起・生活支援」と「地域しごと支援策」を中心に、地方自治体の地域活性化に、また、地方主体の独自性に期待を寄せています。

長力を探る・視ることが重要です。

本町の将来を見据える基礎資料として、住民のみなさまとともに考える場づくりになればと、テーマごとに考察します。

どんなまち

西暦700年前後に撰津国川辺郡がおかれ、明治時代になると兵庫県川辺郡となりました。昭和30年(1955年)4月10日に北部の六瀬村と南部の中谷村が合併して町が発足し、平成27年(2015年)で町制施行60周年を迎えました。兵庫

県では阪神間の東北部に位置し、東は大阪府能勢町、西は三田市・宝塚市に隣接しており、町名にもなっている猪名川が細長い町のほぼ中央を南北に貫流しています。また町の約80%が山林で自然が豊富です。昭和50年代から阪神間の住宅都市として発展してきました。

本町においても同様な環境の中、定住人口、住民のニーズと暮らしに『魅力あるまちづくり』が問われています。地方活性化には、主体的事業展開と経営感覚の中から、次世代に合致したバトンをつなぐ、シテイプロモーションの展開は不可欠です。そのために、過去の実績にとらわれない発想で、本町の成

どんなまち

町域面積	90.33km ²	
(東西)	8km	
(南北)	18km	
(周囲)	71km	
市街化区域	4.66km ²	
市街化調整区域	85.67km ²	
農地面積	田	446.5ha
	畑	39.4ha
	遊休地	12.4ha

※平成26年数値



町内に広がる田畑

町の人口は平成27年5月現在で31,702人、世帯数は12,145世帯となっていますが、南部(旧中谷村)の人口は大規模な新興住宅地があり、町人口全体の約86%を占めています。町全体の高齢化率は約24.4%で年々高くなっており、人口減少・高齢化の波が押し寄せています。

どんなひと

どんなひと

人口	31,702人
(内外国人)	142人
世帯数	12,145世帯
高齢者数(65歳以上)	7,756人
生産年齢数(15~64歳)	19,191人
中学校生徒数	1,067人
小学校児童数	2,170人
幼稚園児数(公立のみ)	207人
保育園児数(公立のみ)	97人

※平成27年5月1日数値

☆観光地 (単位：利用人数)

道の駅いながわ	674,369
ふるさと館	28,101
多田銀銅山	22,937
大野アルプスランド	19,845
悠久の館	15,289
猪名川天文台	6,615
静思館	5,449

※平成26年数値



町内産品が集まる道の駅

☆どんなくらし (単位：力所)

医療機関	病院(病床数567)	2
	一般診療所	11
	眼科	2
	耳鼻科	2
介護	在宅サービス	34
	施設サービス	5
その他	消防署・北出張所	2
	交番等	3
	大型店舗	4

※平成27年数値

どんなしごと

地理的条件や交通網により神戸・大阪方面へ通勤・通学している人が多い。農業は兼業農家の割合が高く、平日は周辺都市へ通勤している人が見受けられます。

☆どんなしごと (単位：人)

第1次産業	355
農業	349
林業	6
漁業	—
第2次産業	2,739
建設業	883
製造業	1,856
鉱業	—
第3次産業	10,369
電気・ガス・水道業	102
運輸・通信業	1,099
卸売・小売業	2,595
金融・保険業	483
不動産業	261
サービス業	5,164
公務	665
分類不能の産業	662

※平成22年国勢調査

どんなひと

持ち家比率が高く、一戸建て住宅が圧倒数を占めています。大型店舗が4力所あり、交通機関は日生中央駅を起点にしてバスやタクシーが運行されています。



子育て支援センター

人口減少社会は避けられず、人口移動・移住選択が進み、地方・地域の魅力づくりが更に求められます。現状を知り、住民のみなさんとともに、将来に向けたまちづくりを柔軟な発想で、着実に進めなければなりません。是非、ご協力願います。

自治功労者表彰を受賞



福井澄栄 議員



池上哲男 議員



下坊辰雄 議員

6月1日に開催の兵庫県町議会議長会総会において、永年にわたる議員活動などの功績が認められ、表彰されました。

全国町村議会議長会より、昭和62年に初当選以来、町議会議員27年以上の在職功労者として、

兵庫県町議会議長会より、平成7年に初当選以来、町議会議員20年以上の在職功労者として、

こどもたちの声



ラーメンだいすき

楊津小学校二年 栗栖れいら

ラーメンきねんかんに行きました。じどうはんばいきからでてきたカップに絵をかきました。ぐを四つ、じぶんであらびました。早く食べたいです。わくわくもしてごきごきしました。

「わかなちゃん、たのしみやな」「そやな」と、おしゃべりしました。



「平和のとりでを学習して」

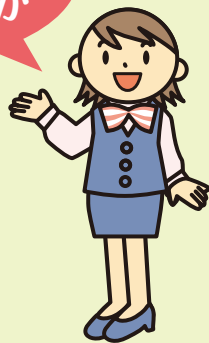
つつじが丘小学校六年 吉川璃梨

「平和」と発言するのは簡単だ。でも、「実現」そして「築く」のは難しい。平和があると未来が広がる、希望が見えてくる。森を燃やすのは簡単でも、木を森にするまでは何十年もかかる。戦争をするのは簡単でも、平和を取り戻すのは大変なことです。その「とりで」平和の大切さに気付けたと思う。



お知らせ

みなさんも
議会・委員会を
傍聴しませんか



町議会では、身近な問題などを議論しています。まちづくりを一緒に考えてみませんか。

傍聴の手続きは簡単で、当日、議会事務局で傍聴受付簿に住所・氏名を記入していただくだけで傍聴できます。

(議場20人、委員会室10人まで)

27年度定例会・臨時会の日程(予定)

- *9月定例会
 - 第1日 9月1日
 - 第2日 9月10日
- *臨時会
 - 10月6日～7日
- *12月定例会
 - 12月8日～18日
- *3月定例会
 - 28年2月24日～3月24日

※議事の都合により変更する場合があります。

編集後記

6月定例会が終わり、町北部地域に防災拠点と人権啓発事業・行政サービスなどの拠点となる(仮称)六瀬総合センターが平成28年3月完成に向け着工の運びとなりました。

平成25年10月から住民の皆さんと議会をつなぐツールとして、わかりやすい紙面づくりを心がけてきました。

この間、町村議会広報全国コンクールで奨励賞や兵庫県町議会議長会広報紙コンクールで優秀賞を受賞しました。次号からは、新メンバーにバトンタッチしていきます。2年間の感謝と、今後も引き続きご愛読いただきますようよろしくお願いいたします。

広報特別委員会
委員長 丸山 純

